

第3回南砺市立学校のあり方検討委員会会議録（要点記録）

1. 日 時 令和5年1月20日（金） 午後7時 ～ 午後8時45分

2. 場 所 南砺市役所 福光庁舎別館3階 大ホール

3. 出席委員 28名（代理出席3名、欠席2名）

No.	役職	氏名	所属	備考
1	委員	松山 友之	学識経験者（富山国際大学子ども育成学部教授）	委員長
2	委員	齋藤 史朗	学識経験者（元富山県西部教育事務所長）	副委員長
3	委員	税光 詩子	学識経験者（元南砺市教育委員）	
4	委員	棚田 賢也	小学校長会（福光中部小学校長）	
5	委員	齊藤 哲也	中学校長会（福野中学校長）	
6	委員	谷戸 仁美	保育士会（井波にじいろ保育園長）	
7	委員	唐嶋 田鶴子	幼稚園代表（福野青葉幼稚園長）	
8	委員	工藤 悠市	南砺市PTA連絡協議会代表	
9	委員	川田 将晴	城端地域PTA代表	代理 野村 雄亮
10	委員	藤井 耕四郎	平地域PTA代表	代理 山口 清志
11	委員	酒井 堅信	上平地域PTA代表	
12	委員	笠原 一忠	利賀地域PTA代表	欠席
13	委員	山崎 賢治	井波地域PTA代表	
14	委員	金道 真一	井口地域PTA代表	
15	委員	橋爪 央樹	福野地域PTA代表	
16	委員	山田 剛	福光地域PTA代表	
17	委員	松本 久介	城端地域づくり協議会代表	代理 水上 和夫
18	委員	井渕 信雄	平地域づくり協議会代表	
19	委員	鉢蟬 圭伸	上平地域づくり協議会代表	欠席
20	委員	野原 哲二	利賀地域づくり協議会代表	
21	委員	富田 利通	井波地域づくり協議会代表	
22	委員	東 康紀	井口地域づくり協議会代表	
23	委員	伊豆 多都子	福野地域づくり協議会代表	
24	委員	水口 幹夫	福光地域づくり協議会代表	
25	委員	大河原 晴子	公募委員	
26	委員	近川 利行	公募委員	

27	委員	江川 由貴子	公募委員	
28	委員	石崎 里果	公募委員	
29	委員	井上 明世	公募委員	
30	委員	堀 勉	公募委員	

[アドバイザー]

井波小学校 校長	松永 和久	利賀小学校 校長	高田 公美
城端小学校 校長	犀川 敏朗	上平小学校 校長	中町 寿子
吉江学校 校長	梨谷 一男		

[事務局員]

教育長	松本 謙一	教育部長	村上 紀道
教育総務課長	氏家 智伸	教育総務課副参事	吉尾 徹
教育総務課主幹	金谷 諭	教育総務課主幹(学務係長)	山田 浩司

[傍聴人数] 0人

[協議事項等]

1. 委員長あいさつ

2. 報告事項

- (1) 第2回検討委員会【報告事項】に関する主な質問・意見等について 資料1
- (2) 第2回検討委員会グループワーク後の意見等について 資料2
- (3) 「吉江中学校区 学級数の見通し」の生徒数修正について 資料3

3. 協議事項

- (1) 南砺市における学校の適正規模について
- (2) 各地域における学校のあり方の検討について(時期と手法)

— グループワーク —

4. 次回協議会の日程 第4回検討委員会 令和5年3月第2週

5. 副委員長あいさつ [会議の概要]

○開会

1 委員長あいさつ

(委員長)

グループワークにおいて、前回も色々な意見、地域の違い等分かってきた。

もう少し地域の違いを話し合って理解を深めたい。

今回は、前回のグループワークでの意見も含めて地域ですり合わせ、最後に意見を発表
願いたい。

2 報告事項

事務局から、(1) から (3) までについて資料に基づき報告
事務局

(2) 第2回検討委員会グループワーク後の意見等について 資料2

- ・委員A 資料P 3★教育委員会の見解中、「児童生徒1人当たりの教員を最も手厚く配置できるのが単級の学校であり、統合するより現在の教育資産を生かすメリットのほうが大きい」とあるが、その具体的な説明をしてほしい。
- ・事務局 教員の数と児童生徒の数で計算し、1人の先生が何人の児童生徒を指導できるのか見積もったもの。そういう考え方と理解していただきたい。
- ・委員A 資料P 4★教育委員会の見解は、「長時間かけてスクールバスで学校へ通う負担(デメリット)の方が、統合によるメリットよりも大きい」という意味であると思うが、私はそうは思わない。
- ・事務局 山間部の遠い住所の児童生徒は、学校を統合するとスクールバスで約2時間通学時間がかかることになる。このデメリットが大きいと教育委員会では見解を示したもの。
- ・委員A 資料P 5★教育委員会の見解中、「単級化に伴う専門教科の教員不足をカバーする手段として有効」について、どういうことか説明してほしい。
- ・委員B 中学校は、単級になったときに、各教科1人ずつの教員では、良い指導ができない。2人配置して、お互い切磋琢磨して指導力を培うべき。
- ・事務局 砺波地区全体で教員の経験年数等を考慮した配置を行い、課題を解決していきたいと考えている。

これら教育委員会の見解を踏まえて、地域ごとに議論いただきたい。

3. 協議事項

(1) 南砺市における学校の適正規模について

(2) 各地域における学校のあり方の検討について(時期と手法)

地域毎にグループワークを約40分間実施した後、各グループから発表した。

- ・城端グループ 南砺で一つ又は二つの中学校でもよいのではないかと。

そうすれば、砺波市(出町中学校)のように部活動が充実すると思う。

人口減少が早いスピードで進んでいるので、もっと早い対応をすべき。

1 地域に一つの義務教育学校は難しいのではないかと。

・井波グループ 10年後又は15年後にはどんな学校運営になるのか。シミュレーションをやらせてもらえたらよい。

統合したほうが、メリットが見えるかもしれない。

これからは、いかに専門的な教育に会えるのかということが大切。そのあたりを教育委員会は、どう考えているのか。

・平・上平グループ 平・上平は、教育委員会から提案のあった義務教育学校を中心に考える。

保育園を統合することについては、保護者の意見交換において、給食のアレルギー対応、先生の対応など、保育園と小学校のお互いの影響がわからない。細かい問題点を示してほしい。と意見が出ている。

小学校4年生が学校の最高学年となった場合、児童の負担が大きい。4年生が耐えられるものなのかという意見。

地域からの意見として、中学校は、高校と統合し、平のキャンパスで一緒にしてはどうか、平高校のニーズが減っているので解決策として。高校校舎も老朽化している。部活動の連携も可能ではないだろうか。

・利賀・井口グループ 利賀の山村留学 県外から13人が来ている。刺激があって、良い効果がある。それとどう結び付けられるか。義務教育学校によって、どう影響するか。地域のエゴにならないか。情報発信を活発にやればよい。

井口の義務教育学校の開校経緯について。もともと併設していたので、従来のスタイルで入っていった。活動が活発になってきた。日頃の活動のなかでも、9年生が1年生を面倒みる。中学年が上学年への憧れをいなく、連携のよいメリット。

小さな学校で自主性が出来ている。

・福光グループ 義務教育学校にしなくてもよいのではないかと意見。

福光は、義務教育学校化を進めた場合に、吉江、福光の両地域で分かれて出来てしまう可能性があるから、中学校をひとつにするのが案である。

そうすれば、南部小卒業生が福光中学校又は吉江中学校へ分かれてしまうこともなくなる。

福光・吉江両地域の方々の理解を得るように検討を進めていったほう

が良い。

- ・**福野グループ** 学校の適正規模について 学校のありかた検討委員会は5年を目途に、ということであるが、福野は5年間子供の数が変わらないから、ということではなく、将来的なことを考えて、統合を目指すべきではないかという意見が出た。南砺市として、こどもをどう育てていくか。子育て世代が本当に住みやすいところなのか。もしかして、現役世代でなく、その上のひとたちが住みやすい地域ではないか。市として、子育てにかかる支援をどうやってしていくか。
金沢に近いことから、そのメリットを引き出せるような市であったらよいという意見があった。

- ・**委員長** シミュレーションの話も出た。地域地域の特色、方向性が見えてきた。すりあわせが大切である。10年先、20年先を見据えた議論を行いたい。

4. 次回協議会の日程

次回の第4回南砺市立学校のあり方検討委員会は、令和5年3月第2週を予定している。今回の会議を踏まえて、2月15日までに個人の意見及び皆様の各団体からの意見を提出いただき、協議の資料とする。

5. 閉会 副委員長あいさつ

(副委員長)

今回、地域ごとの意見が深まった。
市の人口は減少するが、市域は広い。
これらを踏まえて、議論を進めていきたい。

以上